

平成30年度 第2四半期（7月～9月）

# 景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 中小企業相談所

## 全産業業況DI値は前回調査から3.4ポイント改善、平成29年度第2四半期からは10.7ポイント悪化

### ■全業種概要

全産業の総合判断DI値は▲2.3（前期比+3.4、前年同期比▲10.7）、来期見通し（10月～12月）については、▲1.7（前期比+3.4、前年同期比▲2.3）となった。

全業種において、前回調査に引き続き「従業員の確保難」が経営上の問題点の上位を占めているほか、猛暑や台風により、製品、材料の輸送難や作物の不作の影響による収益悪化の声が聞かれた。

設備投資については、「実施した」との回答が38.6（前期比▲2.8、前年同期比▲3.5）、来期に設備投資を「計画している」との回答は37.0（前期比▲1.6、前年同期比▲1.6）となった。投資内容については、製造業では生産設備、建設業では車両運搬具、卸売業では車両運搬具・付帯設備、小売業では付帯設備、運輸業では車両、サービス業では付帯設備への投資が主に見られた。

### ■製造業

業況DI値は▲3.7（前期比▲2.5、前年同期比▲20.2）、来期の見通しについては3.8（前期比+11.1、前年同期比▲6.0）となった。

自動車部品関連では、安定した受注が見込まれる中、米国の高関税政策の影響や原油価格の高騰などを不安視する声が上がっている。また食品製造業においては猛暑や台風による農産物の価格高騰により、収益が悪化している。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「原材料価格の上昇」、「生産設備の不足・老朽化」が主に挙げられる。

### ■建設業

業況DI値は7.7（前期比+7.7、前年同期比+4.1）、来期の見通しについては▲7.7（前期比+15.4、前年同期比+3.4）となった。

官公庁関連をはじめ、需要、仕事量は増えている一方で、請負単価の低下、労務単価上昇などにより収益性は厳しい、との声や「需要増加は一時的なもの」という見方が強い。

経営上の問題点としては、「官公庁需要の停滞」、「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」が主に挙げられる。

### 調査概要

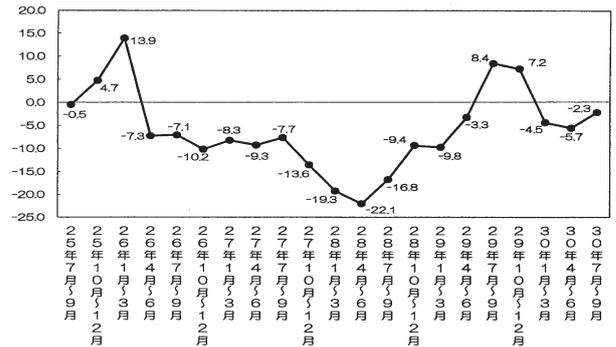
- 調査対象
  - (1)対象地区：豊橋市内
  - (2)対象企業数：350社
  - (3)回答企業数：176社（回答率50.29%）
- 調査期間
 

平成30年7～9月
- 調査方法
 

往復ハガキによるアンケート調査
- 回答企業の内訳
 

製造業82・建設業26・卸売業19  
小売業20・運輸業13・サービス業16

### 全業種



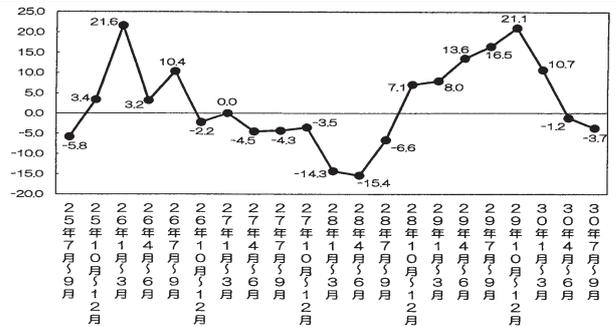
《A》 前年同期（平成30年7月～9月）と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI値	↑
18.9%	60.0%	21.1%	▲2.3	

《B》 来期（平成30年10月～12月）の景況見通し

良い	同様	悪い	DI値	↑
16.9%	64.5%	18.6%	▲1.7	

### 製造業



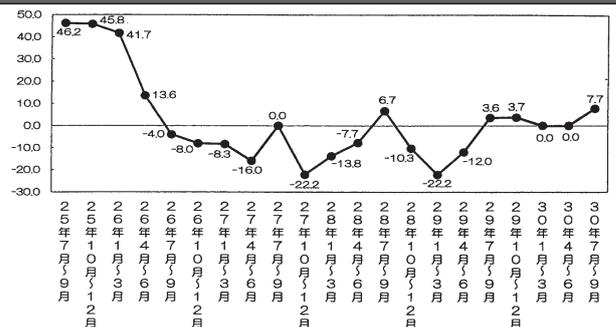
【今期の景況】 平成30年7～9月

業況	▲3.7	↓
----	------	---

【来期見通し】 平成30年10～12月

業況	3.8	↑
----	-----	---

### 建設業



【今期の景況】 平成30年7～9月

業況	7.7	↑
----	-----	---

【来期見通し】 平成30年10～12月

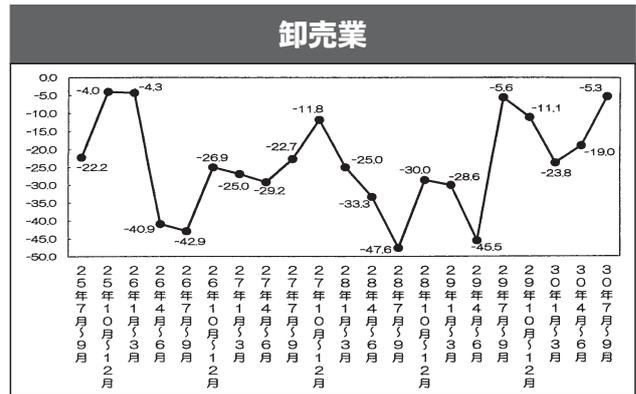
業況	▲7.71	↑
----	-------	---

## ■卸売業

業況DI値は▲5.3（前期比+13.7、前年同期比+0.3）、来期の見通しについては▲10.5（前期比+4.5、前年同期比+0.6）となった。

服飾関係の卸売業においては、売上減少が続いている模様。一方、食品卸売業では、顧客獲得の競争が激しいものの、首都圏向けの取引が増え、売上増加が見込めるとの声も聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「販売価格の低下・上昇難」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成30年7～9月

業況 ▲5.3 ↑

【来期見通し】平成30年10～12月

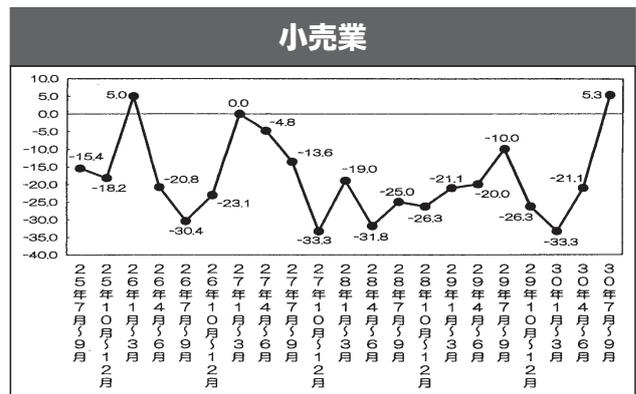
業況 ▲10.5 ↑

## ■小売業

業況DI値は5.3（前期比+26.4、前年同期比+15.3）、来期の見通しについては▲20.0（前期比+13.3、前年同期比▲8.2）となった。

大型商業施設ではインバウンドによる化粧品等の売上が増加している。また自動車販売においては新車販売が好調に推移している模様。一方、衣料品販売業は低調である。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「需要の停滞」、「人件費の増加」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成30年7～9月

業況 5.3 ↑

【来期見通し】平成30年10～12月

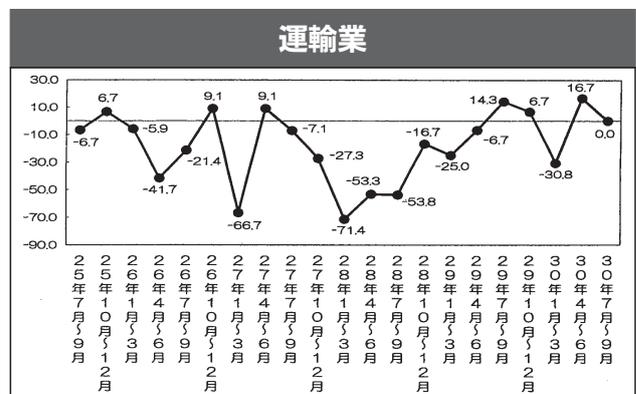
業況 ▲20.0 ↑

## ■運輸業

業況DI値は0.0（前期比▲16.7、前年同期比▲14.3）、来期の見通しについては7.7（前期比▲0.6、前年同期比+7.7）となった。

一般的に仕事量はあるものの、台風等の天候不順による物流の停滞、人手不足による業務の消化不良により、収益が悪化している。来期についても「人手不足による「機会損失」を不安視する声が多い。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「運送単価の低下・上昇難」、「人件費の経費の増加」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成30年7～9月

業況 0.0 ↓

【来期見通し】平成30年10～12月

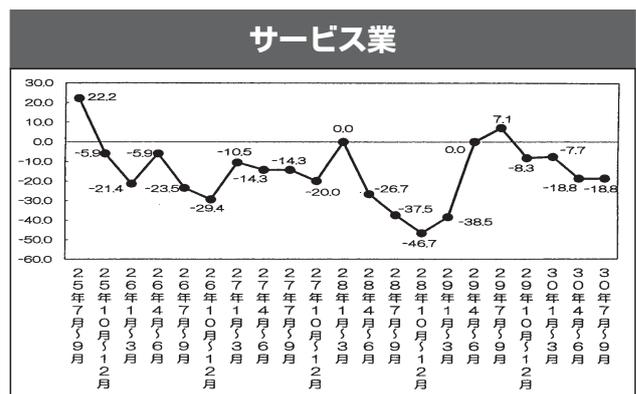
業況 7.7 ↓

## ■サービス業

業況DI値は▲18.8（前期比±0.0、前年同期比▲25.9）、来期の見通しについては6.3（前期比±0.0、前年同期比±0.0）となった。

飲食業では、お客の困込みに成功しているとの声がある中、人手不足による積極的な受注ができず、機会損失が生まれている模様。また旅館業では、人材確保難の中、勤務間インターバル規制の対応に苦慮している、との声も聞かれた。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「従業員の確保難」、「消費者ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成30年7～9月

業況 ▲18.8 →

【来期見通し】平成30年10～12月

業況 6.3 ↑